

○議長 横尾 武志君

次に6番、本田議員の一般質問を許します。本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

皆さま、こんにちは。町会議員になりまして初めて一般質問させていただきます。なるべくわかりやすいようにお伝えしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。一般質問通告書に沿った形の中で質問させていただきます。

件名、地域交流サロン事業の取り組み状況と今後のあり方について、ということについて、お尋ねをいたします。要旨としまして、地域交流サロン事業の目的に沿った形の中で、今それぞれの自治区の中で現在事業展開がされております。今後さらに加速的に高齢化というものが進んでまいり、地域交流サロン事業は高齢者の方々の有効な地域の交流の場所であり、また重要な施策であると考えております。平成の時代に人生80年と言われてたものが、いつの間にか人生100年時代というふうには、ここ最近の言葉としてはキーワードとして、いつの間にか20年ぐらい人生が延びております。この20年といいますと、出生した子供が二十になるまで結構な年月がありますけれども、それほど人生が今、延びてるということになりますので、これからそれぞれの地域の中で、会社勤めが終わったり、あるいは御自分の仕事が終わったり、リタイアされた方々が地域に戻ってきたときに受け皿となるものとしては、御家族であったり、あるいは所属する趣味のグループであったり、あるいは地域であったりというようないろいろなグループに所属することで非常に生きがいとかやりがい、こういったものを感じられるのではないかなというふうに思っております。地域交流サロン事業のキーワードとしましては、いつでも、気楽に、無理なく、楽しく、自由に。こういった形の中で高齢者の方々が、地域の中で生き生きと生活をしていく姿が芦屋町の至るところにあればいいなというふうに考えております。そういった中で、現時点での開催状況、開催自治区における課題や未実施地区の今後の拡大策についてお聞きをし、複数自治区合同開催の形をとりながら、最終的には全自治区への拡大についてというようなことを質問したいと思っております。

1番、サロン事業の主たる目的についてということで、芦屋町でサロン事業が開催をされまして数年たつと思います。インターネットでホームページを見ると、目的についてはもちろん記載はされておりますけれども、これを開催するに至った時代背景とか理由とか、背中を後押しされたとか、さまざまな理由があるかと思っておりますので、開催をされてる目的についてお尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

令和元年第3回定例会（本田浩議員一般質問）

地域交流サロン事業につきましては、地域で孤立する高齢者をつくらない。多くの高齢者が役割を持って地域交流サロンを運営することで、生きがいづくりや支え合いづくりの地域づくりを進めること。あわせて、介護予防を進めるために社会福祉協議会からも支援を受けて取り組んでいる事業でございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今の課長のお答えをいただきまして、2番の質問にも少しかぶりますので、2番の質問と一緒にあわせて今のことについてお尋ねをいたします。今実際に実施されてる地区というのがちょうど9月1日の広報に掲載をされておまして、全部で、ことしの新しく開催をされましたところ合わせまして22地区、開催をされております。ちょうど山鹿地区と芦屋地区の開催状況はどうかかなと一覧表を眺めておりましたら、ちょうど未実施地区がそれぞれのエリアで4地区ずつということで、8地区が現在未実施ではあるんですけども。この開催をされております自治区におきましては年に一度、開催自治区の交流会というものが開催をされておまして、その中では、いろいろなよかった点、悪かった点、今後に生かしていく点等々の評価でありますとか検証といったものが集約された形の中で、役場のほうでは声を集約されてるんだろうと思います。そこで、現在実施している地区における参加者の方々のお声というものを少しお聞かせいただき、どのように検証・評価され、またさらに今後どのようにその声を地域の中で生かしていこうと考えておられるのかをお尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

まず要旨1の目的に関連しましての現状について、まずお話しさせていただきたいと思います。社会実験としての取り組みが平成27年度及び28年度でございます。2年間の社会実験を評価し全町的に推進を始めたのが平成29年度からで、現在では22の地区で地域交流サロンが開催され、400名以上の方が参加されておられます。参加者の感想については、毎年秋に開催しています地域交流サロン交流会で確認しておりますが、「近所での知り合いがふえた」、「地域の人に声をかけやすくなった結果、地域での交流の輪が広がった」、「毎回サロンを楽しみにしている」、「サロンが生きがいになっている」という声を初め、「体操をするので体が元気になった」などの声が聞かれ、参加者からは地域交流サロン事業の当初の目的を超える効果が得られているものと考えております。また二次的には、自治区長さんから「サロンを開催するようになっ

令和元年第3回定例会（本田浩議員一般質問）

てから、自治区の行事に参加するようになった方がふえた」、「自治区民の交流の広がりを感じている」などの声が聞かれております。

続きまして、評価にかかわる部分でございますけれども。私の個人的な、まず感想なんですけれども、4年間で22の地域交流サロンが発足したことは驚いております。これは、地域交流サロン事業の目的が地域のニーズに合致したことが大きな要因であること。次に、地域交流サロンの運営を担っていただいている老人クラブや、自治区の役員さんを初めとした地域の方々の御尽力のたまものだと考えております。しかしながら、各地区で課題を伺ってみますと、「参加者がふえない」、「男性の参加者がふえない」、「運営がマンネリになっている」、「運営資金が不足している」、「気になってる人を誘っても来ない」などの課題が浮かび上がってきております。各地区によって課題はさまざまですが、これらの課題が解決できるよう地域交流サロンの支援を充実していくことが課題と考えております。また、今は地域交流サロンを始めて5年目で、担い手の課題を指摘される声は多くはありませんが、今後、各地区において次の担い手が発掘できるよう、毎年秋に実施しております全ての地域交流サロンの担い手の方々に集まっていただく交流会などを充実していくことが求められているものと考えております。現状の評価としましては、地域交流サロンの運営などに関して、アイデアを出しあって基礎を固める段階であると認識しております。このため既に地域交流サロンを開催している地域には、参加者がふえるような方策や担い手発掘等、人に関わる支援、未実施地区には多方面から働きかけていく必要があると考えております。ただし、地域によっては担い手の人々や年齢、参加者の特性、実施しているプログラムが違うなどの固有の課題があるため、ケースに応じた支援や対応が重要と考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ありがとうございます。今、お聞きする中で、22地区のサロン事業の開催なんですけれども、毎週開催している地区、あるいは月に2回開催している地区、月に1回開催している地区ということで、開催時期はさまざまなんですけれども。この開催時期の多い少ない、こういったことについて利用されてる方々から何か役場のほうに届いてる声というのはありますでしょうか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

私どものほうに直接届くということはないんですけれども、先ほど申しました交流会において、サロンをもう少し、1回よりも2回とかしたいっていう参加者の声が出てるということは伺って

おります。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今のお話を伺うと、マイナス面のお声ではなくて、もっと楽しい会をふやしてほしいというような声がたくさんあるというふうに理解をさせていただきました。そのような中で、先ほど課長のほうから充実した支援というお話がありましたけれども、具体的に充実した支援とはどういったものがあるのかを少しお聞きしたいことと、あわせて今現在、一地区のサロン事業の助成金というのが3万6,000円一律だというふうに思っておりますけれども、ここについては金額を変えるとか、あるいは少し増額をするとか、そういった御計画というものがおありでしょうか。お尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

充実した支援につきましてはいろいろな方法がありまして、今現在は地域交流会におきまして、どういったプログラムを提供できるかっていうことが支援方策の一番重要なところじゃないかなと思いますのと、それとやっぱり日常的に私どものほうがサロンに出向いて行って、どういった状況で開催されておられるか、それから困りごとを直接その現場で拾ってくると。その拾った中で対応していきたいと思っておりますので、充実した支援というのは、これっていうのは今、何といいますかね、これで進めますよというものはないんですけど。例えば昨年であれば地域交流会におきましてですね、やっぱりプログラムが欲しいといったことがございましたので、体操のインストラクターの方に来てもらって、こういうものがサロンのアイテムで使えますよとかいったものを提供した経緯がございますので、これが一つの充実した支援ということになるかとは思っております。それからサロンの3.6万円、月に3,000円というところなんですけども、これにつきましては、当初少ないとか、それとか大きい区には多く配分していただきたいとか、そういった声があっておりますけども、町のほうとしてはこの範囲でということをお願いしております。今のところ、これをすぐに増額するという計画は持っておりません。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今後も充実した支援を、ぜひよろしく願いいたします。

3番目の要旨に移らせていただきます。

未実施地区への対応ということで、現在、先ほど申しました22地区の自治区が開催をしておりますけれども、残り8地区ありますので、この残り8地区の未開催地区の対応についてはどのようにお考えになられておられるのか。また、いつごろまでには30地区全部を開催するというような目標があるとか、そういったものがあればお尋ねをいたしたいと思います。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

私どもが地域の方々へお願いしていることは、できるだけ地域のことは地域で考えていただくことでございます。地域におかれましては、高齢者が多くおられる地域、引きこもりがちで心配な高齢者がおられる地域、あるいは将来の高齢化に備えてコミュニティー力を高めておきたいなどの考えを持っておられる地域の方々もおられます。その点、地域交流サロンは地域での孤立防止や見守り、コミュニティーの促進、介護予防等さまざまな効果が見込まれます。また、地域交流サロンは、地域の方々で運営していただくものであることから、これまでに区長さん、老人会長さん、地域のグループなど、さまざまな方へ開催を働きかけて現在に至っております。未実施地区の方々に対しても、キーパーソンとなられる方々とお話しするチャンスを捉え、引き続き、地域交流サロンの開催に係る働きかけを続けていく考え方で取り組んでまいります。また、担い手や運営方法など地域の考え方が反映される事業ですので、期限を設定して、いつまでにやるっというこの計画は今のところは持っておりません。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ありがとうございます。今、実施地区、未実施地区のことをお尋ねいたしましたが、ちょっと私、全国社会福祉協議会が出されてるサロンのことについて、少し事前に見てまいりました。その中にですね、高齢者の方が寝たきりや痴呆になる最大の原因は閉じこもりと言われておりますので、それを解消すれば生き生きとした高齢者の方々が地域で活躍をするということになるんだろうというふうに思っております。効果としまして、ここの中には6つ書いてありましたけれども、1つは楽しさ、生きがいということで社会参加をしているという充実感。2つ目としては体操教室等々含めまして、無理なく体を動かせるということで一定の効果が体にはありまして、やわらかい体をつくることができる。3点目としては、御近所の触れ合いサロンに出かけること

によって、人と会ったり話したり笑ったりすることによって、適度な精神的な刺激になると。4点目が、健康や栄養についての意識がつく習慣がということで、高齢者がひとり暮らしになったりしますと、なかなか外との接触がありませんので、そういった方々が食事に気を使ったり、そういった習慣がつくことによって健康な体を保つことができる。5番目には、生活のメリハリということで、きょうは何曜日とか何月何日とかがわからなくなるというようなお話をよく聞くお話なんですけれども、サロンの効果としましては、きょうは何曜日で何月何日はサロンの日ということで、日ごろから人に会う楽しみを控えて、身だしなみに気を配るようになるということ、身ざれいにすることができる。最後の効果としては、閉じこもらせないということで、御近所に歩いて行けるところに触れ合いサロンがあれば、ちょくちょく出かけて人に会え、閉じこもりが解消できる特効薬になるというようなことが書いてあります。

そのことを踏まえまして、次の要旨に移らせていただきたいんですけれども。現在実施をしていない地区がありますので、今、単独でサロン事業を開催しているんですけれども、開催している地区と一緒にいくつか合同で開催するというようなことについて、未実施地区の方々がそこに参加をするという方法がとれば、いいのではなかろうかなというふうに考えております。と言いますのが、例えば今現在高齢者の方々も、30年ほど前子育てをしていたころについては、地域のいろいろな趣味のグループでありますとか、あるいはPTA活動を通じて知り合った方々が、自治区は違うんだけれども多数いらっしゃるんだらうというふうに思います。そういった横のつながりを持っておられる方々を一つの自治区の高齢化のサロン事業の中で、一地区にとどめることなく複数の地区で開催することによって、久しぶりに会ったとか、あるいは何十年ぶりに会ったというようなことで昔話に花が咲いて、非常に、高齢の方々が活性化するのではないかなというふうに思っております。そこでこれは交流会のほうでも提案をしたんですけれども、単独開催だけではなくて、年に何回か複数の地区を合同で開催してもいいのではなかろうかなというふうに考えておりますけれども、これについてはいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

地域交流サロン事業につきましては、まず主体が地域の方ということでなっております。そのために、できるだけ制約をなくした中で仕組みづくりというものをつくっております。その一つが他の地区との共同開催もできるというようになっております。また、開催場所も自治区公民館以外でも可能となっているほか、主催は自治区に限らず、老人クラブや体操の同好会等、幅広く担っていただくことも可能にしております。ただ、実施地区を現状の自治区単位としておりますので、一つの実施地区ですね。開催場所として公民館を利用する場合は、区民への周知等を考

令和元年第3回定例会（本田浩議員一般質問）

慮して地域の区長さんと連携をとっていただくことを留意点としてお願いしてる程度でございますので、今の議員が御提案される部分につきましては問題ないというふうには考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ありがとうございます。

そうしましたら、要旨の最後のところに移りたいと思いますけれども、それをもう少し拡大した形の中で、芦屋町全体のサロン事業というものを考えてはどうかなというふうに考えております。と言いますのが、先ほど申しました未実施地区もございますし、いろいろな形の中でお知り合いの方がいらっしゃると思いますので、全部の地区で一緒に開催をすることになれば、芦屋町民の方であれば、それぞれ知り合いの方がおられる中で人の交流が図れるということで、非常に楽しい会ができ上がるのではないかなというふうに思っておりますので、合同開催を少しまた拡大した中の、全体的な会はいかがでしょうか。

○議長 横尾 武志君

福祉課長。

○福祉課長 吉永 博幸君

町全体のイベントという、町全体でサロン事業というお考えなんですけど、先ほど私申し上げましたけども、このサロン事業というのは主体が地域の方々でございます。したがって、現在各地区で地域交流サロンの運営を担っていただいている方々の意見を伺うことが、まず重要であろうと考えております。その上で、実施の有無等を地域の方々と一緒に考えていきたいというふうには考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

ありがとうございます。先ほど課長がおっしゃいましたように、地区での開催が基本だということは十分そうなんだろうなと思っております。冒頭のお話の目的の中でいきますと、歩いて行けるというようなのがまず1番のベースであるかなというふうに思っておりますので、例えば山鹿地区の方が町民会館で開催された際に、少し足の不自由な方がそこに行けるかと言われると少し難しいところもあるかもしれません。ですから、基本的な開催は自治区のほうの開催で構わないというふうに思っておりますが、年に1度、2度というような形の中で、お祭りのようなイベ

令和元年第3回定例会（本田浩議員一般質問）

ントがサロン事業の中にあってもいいのかなあというふうに考えておりましたので、一応提案をさせていただきます。これから先はちょっと私の希望なんですけど、一つの例としまして芦屋町では小学校、中学校の子供たちを対象にした小中合同音楽祭というものがあまして、小さなころから音楽に親しむという土壌があります。また、今回サロン事業のどういった種目をされますかというもののの中に、約半分ぐらいがカラオケという種目もありました。恐らく芦屋町に限らずいろんなところで、皆さん歌が好きなんだろうというふうに思っております。

数カ月前テレビで見た番組の話なんですけれども、奄美大島のほうで地域住民の方々が紅白に分かれて歌合戦をするという番組がございました。事前にその大会に向けた事前準備ということで、物を準備したり練習をしたり、それからそのことによって張り合いがあったり刺激になったりというようなことで、非常に高齢者の方が生き生きと動いておられる姿がテレビに映ってございました。しかもこのイベントは数千円の有料イベントになっておりましたけれども、チケットが即売、すぐに売れてしまうと。会場を出た方々に終わった後の感想を聞くと、「すごくよかった。」と、「すぐにでもまた開催してほしい。」というようなイベントの話がテレビ放映であってございました。それを真に受けて、全て芦屋町でそれができるといふふうには思っておりませんが、少し形を変えた中で、全体で町民会館とか夢リアとかそういった会場で、全体の高齢者の方々の地域サロン事業、こういったものを歌合戦形式にするとかいう形をとれば、非常にまた趣味を生かした中で楽しいものができ上がるのではないかとこのように思っております。

先ほども申しましたように重ねて言いますが、事前に、いろんなことをやりましょうってなりますと、「いついつ、何をしないといけない」、「いついつ、どこに行かないといけない」、「いついつ、誰と会って練習をしないといけない」といったことで、きょうが何曜日とかきょうが何日とか、そういったことも当然頭の中に自然に入ってきた中で、毎日の生活が活性化していくのではないかなというふうに思っております。ぜひ、自治区だけのサロン事業にとどまることなく全体の、まあ一例として今、歌合戦の話をしたんですけれども、種目は何にしる、いずれ全体的なサロン事業が開催できればいいのかなというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願いをいたしたいと思っております。

これを受けて私の質問を終わります。ありがとうございます。

○議長 横尾 武志君

以上で、本田議員の一般質問は終わりました。